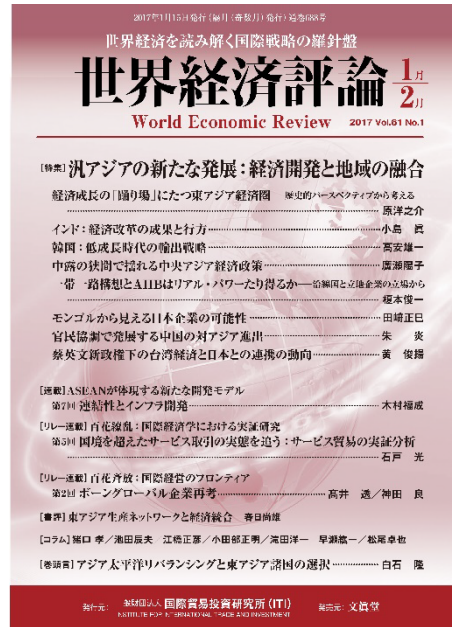


本論文は

世界経済評論 2017年 1/2月号

(2017年 1月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF



定期購読
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

東アジア生産ネットワーク と経済統合

福井県立大学教授 春日 尚雄



[著者] きむらふくなり 木村福成 慶應義塾大学経済学部教授
おおく ほとしひろ 大久保敏弘 慶應義塾大学経済学部教授
あんどうみつよ 安藤光代 慶應義塾大学商学部教授
まつうらとしゆき 松浦寿幸 慶應義塾大学産業研究所准教授
はやかわかずのぶ 早川和伸 アジア経済研究所研究員

[発行] 慶應義塾大学出版会, 2016年5月

[判型] A5判, 240頁

[定価] 4200円+税

本書は、東アジアにおける国際的生産・流通ネットワークの展開とASEAN地域経済統合の進捗について、日本など先進国と新興国・発展途上国との間の国際分業が大きく変容していることを実証研究を中心に論じている。執筆者である5人の研究者が、それぞれ個性ある持ち味を生かした分析を展開する好著である。本書を通じて、東アジアの生産・流通ネットワークに関して、フラグメンテーション（工程間分業）理論と、リチャード・ボールドウィンが提唱する「第2のアンバンドリング」の議論、という2つの視点が提

供されている。

本書は3部構成となっている。第I部は「生産ネットワークの安定性・頑健性」として、世界金融危機、東日本大震災およびタイ大洪水のような事態で、生産ネットワークそのものがショックを伝播させるのは事実として、機械産業のフラグメンテーションと生産ネットワークが回復、復旧する耐性を持っていることをサバイバル分析、ロジック分析を用い示している。第II部は「生産ネットワークの新展開」として、生産ネットワークの地理的展開が、産業や製品の特性などから異なるが、地域単位のものであることを明らかにし、企業のグローバル化が与える影響については、対外直接投資の自国内の生産性、雇用へのインパクトが、途上国への垂直的 direct 投資のパフォーマンスがより優れていることを導いている。また直接投資に関する新たな視点として、「ネットワーク FDI」の概念を示し、現実はいより複雑な性格をもった直接投資がはるかに多いことの重要性を提起している。第III部は「生産ネットワークと経済統合」として、地域経済統合との文脈で生産ネットワークを論じ、FTA 締結と利用の状況についての分析をおこなう。最終章では、グローバル・バリュー・チェーン (GVC)、産業の4段階のティア構造、(ASEAN) 経済統合、という切り口から発展段階別の政策面における開発アジェンダの違いについて踏み込んでいる。最後にメガ FTA の流れについて、ERIA チーフエコノミストである木村教授の ASEAN 経済統合への期待をこめた解説がなされている。

一点だけあげれば、東アジアの生産ネットワークの中で現時点で圧倒的な存在感をもつ中国についての評価が知りたかった。日本、中国と ASEAN とで3極をなしているが、自国の諸秩序を強く主張する中国が東アジアのみならず、世界でも生産ネットワークの中核となっている今の状況に、脆弱性は存在しないのかということは少なからず思うところである。(かずがひさお)